

科目名	情報処理Ⅱ	英語科目名	Information Processing II
開講年度・学期	平成 22 年度・通年	対象学科・専攻・学年	建築学科 3 年
授業形態	講義+演習	必修 or 選択	必修
単位数	2	単位種類	履修単位(30 時間単位)
担当教員	前期：横内基 後期：大島隆一	居室（もしくは所属）	建築学科棟 2 階
電話	0285-20-2837（横内） 0285-20-2844（大島）	E-mail	yokouchi@oyama-ct.ac.jp o-shima@oyama-ct.ac.jp
授業の達成目標			
1. 表計算ソフトを利用して簡単な分析ができる。 2. 表計算ソフトの Visual Basic for Applications(略して VBA)を利用できる。 3. 2次元の建築図面を CAD で作成できる。 4. 作品や研究レポート発表等に向けた作業としてコンピュータで処理ができる。			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
達成目標 1,2 については、毎授業の演習課題および定期試験により評価する。 達成目標 3,4 については、提出ノートや演習作業の CAD 図面等を、完成度と正確度による設定水準で評価する。 (作品内容や研究レポート発表内容等に関する評価はしない(情報を処理する方法の講義に重点をおくため。))			
評価方法			
前期の達成目標 1,2 については、試験の成績(30%)、受講態度(10%)、演習課題(60%)で評価する。 後期の達成目標 3,4 については、CAD 演習図面等の提出(60%)、演習前後の講義ノート提出(40%)で評価する。 ・前後期の成績を平均して学年末の成績とする。 ・未提出の課題・レポートがある場合は、原則として成績を不可とする場合がある。			
授業内容			
【前期】 01(1 週)全体ガイダンス(教室) 02(1 週)VBA の基本操作(情報センター) 03(1 週)セルの操作と変数(情報センター)---->課題提出 04~05(2 週)簡単な計算のプログラミング(情報センター)---->課題提出 06~07(2 週)分岐処理(情報センター)---->課題提出 08<中間試験> 09~10(2 週)繰り返し処理(情報センター)---->課題提出 11(1 週)配列(情報センター)---->課題提出 12(1 週)サブプロシージャの活用(情報センター)---->課題提出 13(1 週)数値計算プログラムの作成(情報センター)---->課題提出 14(1 週)分析ツールの活用(情報センター)---->課題提出 期末試験 15(1 週)分析ツールの活用(情報センター)---->課題提出			
【後期】 01(1 週)全体ガイダンス&PC・データの活用について(教室)---->ノート提出 02(1 週)CAD の基本 1(教室) 03(1 週)CAD の基本 2(情報センター)---->ノート提出 04(1 週)CAD 平面図演習(情報センター) 05(1 週)CAD 平面図演習(情報センター) 06(1 週)CAD 平面敷地図演習(情報センター)---->CAD 図提出 07(1 週)CAD 断面図演習(情報センター) 08<中間試験> 09(1 週)CAD 断面図演習(情報センター)----->CAD 図提出 10(1 週)CAD 立面図演習(情報センター)----->CAD 図提出 11(1 週)CAD 総合演習(情報センター) 12(1 週)プレゼンテーション画像処理テクニック(教室)---->ノート提出 13(1 週)プレゼンテーションテクニック(情報センター)----->プレゼン CAD 図提出 14(1 週)CAD 図面利用テクニック(教室)---->ノート提出 期末試験 15(1 週)CAD 図面利用テクニック(情報センター)----->プレゼン CAD 図の PPT 提出			
キーワード	表計算ソフト、VBA、統計分析、データ処理、CAD		
教科書	前期:必要に応じてプリントを配布する。		
参考書	前期:工学のための VBA プログラミング基礎、村木正芳、東京電機大学出版局 後期:実務最優先 Jw_cad for Windows 徹底活用術、日本建築情報センター、エクснаレッジ		
小山高専の教育方針①~⑥との対応	⑤		
技術者教育プログラムの学習・教育目標			

JABEE 基準 1 の (1) との関係	-----		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	情報処理 I		
現学年の関連科目	建築設計 IB		
次年度以降の関連科目	応用数学、建築設計 IIA,IB、卒業研究		
連絡事項			
1. リポート作成や卒業研究・設計等でのコンピュータの利用頻度が高いので、目的意識をしっかりとって授業にあたること。 2. 建築 CAD は基本事項と応用を短期間で学ぶことになるが、もっと身につける必要があると感じた学生は積極的に自己学習を進める。 3. コンピュータ利用が社会的にも必須であり、それを自分なりの活用ができるようになって欲しい。			
シラバス作成年月日	平成 22 年 3 月 4 日		